

名誉会員追悼



故 名誉会員 加藤榮一 君

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、早稲田大学名誉教授 工学博士 加藤榮一先生は令和4年4月22日にご逝去されました。享年98歳でした。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和22年9月早稲田大学理工学部応用金属工学科を卒業され、昭和27年10月同学部金属工学科助手、昭和33年4月同学科助教授を経て、昭和40年4月同学科教授に昇任されました。その後、昭和61年から平成2年には鑄物研究所長(昭和63年に鑄物研究所は各務記念材料技術研究所に改称)、そして、平成2年から平成4年には理工学部長という要職を務められました。平成6年3月に定年退職され、同年早稲田大学名誉教授の称号を授与されました。

また、先生は、本会の事業推進において、昭和48年より昭和60年の間で理事を3期務めると共に、昭和49年より昭和52年まで鉄鋼工学セミナー検討委員会主査を、昭和60年より昭和62年の間欧文誌分科会主査を務められました。さらに、日本学術振興会製鋼19委員会推奨値小委員会委員、製鉄54委員会委員、高温物性140委員会委員、日本金属学会評議員、日本鑄物協会理事、そして日本質量分析学会理事を務められました。

この間、先生は質量分析法を用いた高温物理化学的基礎研究における我が国の先駆者のひとりとして、鉄鋼精錬をはじめとする分野で多くの成果を挙げると共に、若手の育成に積極的にあたってこられました。先生の主要な研究は以下の通りです。

(1) 質量分析法を用いた溶融鉄合金の熱力学的性質の研究

1600℃におけるFe-V系、Fe-V-Cr系、Fe-Ti系に関して精緻な実験技術を確立し、信頼性の高いデータが得られたばかりでなく、本手法のより広い応用の途を開いたものと高く評価されました。さらにFe-P系およびFe-P-i系(i=Si, Ti等)合金に関して、確かな理論に基づいた測定法の開発により、極めて低い蒸気圧のガス検出を可能にし熱力学的性質の測定範囲拡大を実現しました。本法を活用し、さらにFe-Si系のSiの熱力学的性質を測定しました。

(2) 質量分析法を用いた溶融スラグの物理化学的研究

PbO-SiO₂系およびPbO-SiO₂-MO系(MO=BaO, CaO等)の溶融スラグを対象とした熱力学的性質の測定に、質量分析計による手法を世界に先駆けて適用しました。本法を実用スラグに適用し、FeO-P₂O₅系およびFeO-P₂O₅-MO系(MO=CaO, SiO₂, MgO等)、さらにMgO-SiO₂系の熱力学的性質を測定しました。

(3) 溶融金属中の水素を始めとするガス成分の挙動の研究

溶融金属中の水素分析装置を独自に開発しSieverts法の運用を適正化して、鉄合金および銅合金を対象とした広い範囲の研究に適用しました。Fe-C-Si系合金などに関しては従来にない広範囲な測定を実現しました。本研究は特に鑄造工学分野において多くの業績を残しました。

(4) 本会の事業推進に関して、鉄鋼工学セミナー検討委員会主査として精力的に実現に向け検討を行ない、昭和50年より鉄鋼工学セミナーが開設されました。本セミナーは、我が国の若手鉄鋼技術者の育成に多大なる役割を果たしており、本年度で第48回開催を迎えました。

以上の卓越した業績と特別の功績に対して、本会より昭和49年西山記念賞、昭和51年俵論文賞、昭和61年野呂賞が授与されました。また、日本鑄物協会より昭和52年飯高賞を授与されました。さらに、平成11年には勲三等旭日中綬章を受賞されました。

先生が鉄鋼精錬の技術と本会の発展に尽くされた多大な業績に感謝し、会員一同衷心から哀悼の意をささげ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年8月

日本鉄鋼協会 会長 古原 忠